

昨年6月より、こちらのギャラリーをスタートさせてから半年余りが過ぎました。もともと前オーナー(父)が東京で40年余り開いていた現代美術の画廊を、地元の横浜鶴見に移転して再開したのですが、「なぜ東京ではなく、周りにギャラリーもないところに移転させたのですか？」と多くのお客様にお尋ねいただきました。

その想いの一端を、ここに記させていただきたいと思います。

私がギャラリーを引き継ぐにあたってまず思ったことは、「アートをできるだけ身近なものとして多くのお客様に感じてもらえるような、そんな場所をつくってみたい」という素朴な想いでした。

そしてもう一つは「アート(作品)と、お客様との出会いは、1対1の出会い。そのお客様が良いと感じた作品が、その人にとって大切なかけがえのない作品となってゆく。そういう出会いを紡いでゆきたい」という意識でした。

そのため私はギャラリーを「できるだけノイズのない(音だけではなく視覚的や、心理的な部分も含めて)穏やかな場所につくってみたい。ただし、人の生活の現実とは離れすぎない場所に。お客様が、家に戻ったときに、ふとまた作品のことを思い返せるような、そんな親しみの感じられる場所でもありたい」という考えに行きつき、現在の場所に小さなギャラリーを構えることにいたしました。

果たしてその試みが実を結ぶかどうか、私自身まだ手探りの部分が多い状態ではあります。しかしながら、作品を出してくださった作家(アーティスト)の方々は、私のその想いに応えてくれるような作品を出し続けてくださいました。

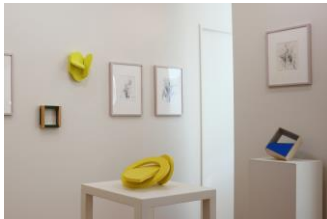
まだ始まったばかりの試みですが、そんな風に応えてくださった作家の方々、そして何よりもご来廊し、私の想いに共感してくださった数々のお客様方に勇気をいただき、私は今日もまたこの場所づくりを一步ずつ前へと進めているところです。

kaneko art gallery 代表 金子太郎

スタートから、計7回の展覧会を開催させていただきました。
さまざまな方にサポートやアドバイスをいただき、実現させることができ
どれも思い入れの深い展示内容となりました。



2020.12 セレクション展



2021.1~2 セレクション・二人展

展覧会が終わるたび、展示された作品を外すのが何だか名残惜しく
なるような、そんな思いが湧きあがります。

アート(作品)には、まるで何かの生命が宿っているような、そんな気
もいたします。それはアーティストの方がそこに込めた想いでもあり、
アートという営みが持つ力でもあり、それを見てくださった方がそこ
に残っていてくれた感動や感情の痕跡でもあるようにも感じます。

私は展示させていただく作品をセレクトする際に、その作品が親しみ
やすさをどこかに持っているかどうかを判断材料のひとつとしている
ように思います。そして渡ったお客様に長年大切にさせていただける
作品かどうか、そんなことも考えているように思います。

また観たくなるような作品、そんな作品に数多く触れさせていただい
ていることを今は何よりも有難く感じています。

各展覧会のアーカイブをホームページよりご覧いただけます。



ホームページのQRコードは、こちらです。

Instagramほか、各SNSへのリンクもあります。

SNSでは各展覧会と作家・作品の情報を随時更新しています。

<http://kaneko-art-gallery.com/>